

生体管理学演習

Seminar of Critical Care Management

キーワード

- ① 全身管理医歯学講座
- ② 麻酔科学分野・全身管理高齢者歯科学分野・障害者歯科学分野
- ③ 生体管理
- ④ 全身麻酔
- ⑤ 高齢者
- ⑥ 障害者

授業概要

近年、重篤な先天性および後天性全身疾患を有するため、歯科診療時に嚴重な生体管理が必要であったり、診療に非協力なため特別な対応が必要となる患者が増加している。特に、高齢者や障害者における全身麻酔や精神鎮静法時の生体管理は、全身的合併症を発症する可能性が高いため、高度な知識と技能が必要となる。本演習では、高齢者歯科学、障害者歯科学および麻酔科学等のそれぞれの視点から専門的な解説を行うとともに、最新の論文および議論を通して、生体管理学における俯瞰的な判断を行う素養を身につけ、各大学院生の研究活動における多角的な検証を行うことを目的として開講する。

授業科目の学修目標

麻酔科学・全身管理高齢者歯科学・障害者歯科学の各分野が担当するのは、全身疾患を有する患者や各臓器機能が低下した高齢者である。これらの患者の歯科診療時には重篤な合併症を発症することも多く、嚴重な生体管理が必要であり、手術や歯科診療による侵襲から患者の身体を守る非常に重要な分野である。これらの観点に基づき、本科目では、臨床において生体管理を行うために、すでに修得した基礎的知識を土台にして、より高度な知識を修得することを目標とする。

授業計画

- ① 緊急時の反応や対応、救急蘇生法について演習する。 4コマ 森本佳成
- ② 全身麻酔における生体管理について演習する。 3コマ 今泉うの
- ③ 生体管理に必要なモニタリングについて演習する。 4コマ 高城大輔
- ④ 静脈内鎮静法における生体管理について演習する。 3コマ 森本佳成
- ⑤ 障害者における全身麻酔、静脈麻酔などの薬物的行動調整について演習する。 2コマ 小松知子
- ⑥ 障害者の薬物的行動調整における全身状態や生理学的、画像診断学的分析を含めた検査とその評価について演習する。 2コマ 赤坂徹
- ⑦ 摂食嚥下機能障害を発症する全身疾患、高齢者の機能評価および栄養管理について演習する。 6コマ 飯田貴俊
- ⑧ 要介護高齢者の口腔機能管理を含めた歯科診療時に必要な生体管理について演習する。 3コマ 林恵美
- ⑨ 総合演習を行う。 3コマ 森本佳成

教科書および参考書

- ① 金子 譲編：歯科麻酔学 第7版 医歯薬出版
- ② AHA：心肺蘇生と救急心血管治療ガイドライン2015 シナジー
- ③ 才藤栄一、植田耕一郎監修：摂食嚥下リハビリテーション 第3版、医歯薬出版
- ④ 日本障害者歯科学会編：スペシャルニーズデンティストリー 医歯薬出版

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

授業計画の各項目では、すでに修得した基礎的知識を土台にして、各専門領域の関連論文および書籍を熟読することを通して、より高度な知識の理解が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 歯科診療中の緊急時の対応や救急蘇生法を実践できる。
- ② 全身麻酔における生体管理を実践できる。
- ③ 生体管理に必要なモニタリングについて説明できる。
- ④ 静脈内鎮静法における生体管理を実践できる。
- ⑤ 障害者における全身麻酔、静脈麻酔などの薬物的行動調整について説明できる。
- ⑥ 障害者の薬物的行動調整における全身状態や生理学的、画像診断学的分析を含めた検査とその評価について説明できる。
- ⑦ 摂食嚥下機能障害を発症する全身疾患、高齢者の機能評価および栄養管理について説明できる。
- ⑧ 要介護高齢者の口腔機能管理を含めた歯科診療時に必要な生体管理について説明できる。
- ⑨ 総合演習を通して、全身疾患を有する患者や高齢者の歯科診療時の生体管理が実践できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポート フォリオ	口頭試問	その他
0%	0%	30%	60%	0%	10%	0%

評価の要点

- ・授業項目ごとに理解度を確認するためレポートと口頭試問を行う。
- ・成果発表は、本演習で身についたことについての発表・質疑応答の内容を総合的に評価する。
ディスカッション・ディベート・課題発表：各20%=60%

理想的な達成レベルの目安

生体管理学演習の理想的な達成レベルは70%以上とする。